

2025年04月29日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【トランプ大統領は、一番大切なものを失いつつある】

今日は、日本のゴールデンウィーク(GW)の真っ最中です。

今年は、飛び石連休なので、連続しての休暇ではない人も多いことでしょう。

クリスマスとゴールデンウィーク(GW)の時期は、毎年同じ事を言っていますが、「暇なので、相場でもやろうか」という態度で臨むことは危険です。

GW期間中は、マーケットが動いていても市場参加者はやる気を失っているし、東京市場が休場のため、世界的に市場参加者が極端に少なくなります。

商いが薄くなるので、値が飛びやすくなります。

GW期間中は休むことが一番ですが、どうしても取引したいというのならば、片手間ではなくフル態勢で臨むべきです。

ポジションを小さくして、万が一の時でも深手を負わないように細心の注意を払って取引してください。

ポジションを取らずに、見ているだけならば、休むと同じです。

ゴールデンウィーク(GW)は、しっかりと休んで、英気を養い、そして、GWが明けてから、しっかりと相場に臨めば良い、と考えています。

+++++

ゴールデンウィークは、休むのが王道と考えています。

休むとは、すなわち、ポジションを取らないことを意味します。

『ゴールデンウィーク明けに、どのように対応するのか?』  
を考えながら、相場を見ていることも、ポジションを取らなければ、休むに同じです。

(=そういった対応も、休んでいるということです)

+++++

上述が王道と考えます。

しかし、今年（2025年）のゴールデンウィークについて、もう少し、書き加えておきます。

今年（2025年）の4月は、トランプ大統領関連のニュースで、マーケット（金融市場）は右往左往しています。

まずは「トランプ関税」のニュースですが、トランプ大統領の言動に、振り回されている、と考えます。

トランプ大統領の発言に、一貫性が無いからです。

トランプ大統領の発言で、マーケット（金融市場）が大きく変動すると、トランプ大統領が前言を撤回する、ないしは、前言を否定するので、マーケット（金融市場）が逆回転をすることになります。

これは、トランプ大統領の性格によることなので、彼の性癖は変わらない、と考えます。

だから、トランプ大統領の発言に飛びつかないで、様子を見て行動するの必要を感じます。

そのためには、一度に大きなポジションを張るのではなく、小さいポジションで、小出しに臨むべき、と考えます。

+++++

もう一つ、ロシア・ウクライナ情勢にも、少し変化が見られます。

ただし、この件も、トランプ大統領の介在がキー（鍵）になっています。

上述の通りに、トランプ大統領の言動には、「朝令暮改」があります。

だから、良いニュースでも、また、悪いニュースでも、飛びつかないで、はっきり言えば、

疑いを持って、臨むべき、と考えます。

+++++

個人的な感想ですが、トランプ大統領は、一番大切なものを失いつつある、と考えています。

それは、「信認」「信用」「信頼」といった類のものです。

当面のところは、トランプ大統領の「それ」の失墜でしょう。

しかし、このままでは（このような状況が続くのならば）、トランプ大統領の「それ」ではなく、米国の（国家としての）「それ」になる可能性も否定できない、と考えます。

+++++  
+++++

(2025年04月29日東京時間14:40記述)